

5月4日

弟子たちを立ち上がらせるキリスト 教理説教のための聖書黙想

テキスト

ヨハネによる福音書 21章15～19節

参照教理問答

子どもカテキズム 問66, 67

ウェストミンスター信仰告白 5章5節

〈ペトロの前に立ってくださる復活の主イエス〉

十字架の死から復活された主イエスは、離反を予告（マルコ14:27～31）しながらも、主イエスが逮捕された時に、主イエスのことを三度「知らない」と語ったペトロ（同14:66～72）の前に立ち、声をかけられる。

主なる神さまは、事前に忠告したにもかかわらず、失敗した者に対して、冷たくあしらわれることはない。主はペトロを愛し、ペトロの罪を赦して下さった。

主イエスは、シモンに対して「あなたはペトロ。わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てる」（マタイ16:18）とお語りくださり、「ペトロ」の名をお与えくださり、新約の教会の指導的立場に立たせてくださった。人の上に立ち、指導的な立場に立つ者は、他の人々より、より罪の悔い改めと、主による救いを確信しなければならず、そのために主の愛を確認することが求められた。

そのため、ペトロにとって、復活の主イエスと出会うこと、そして自らの罪を顧み、悔い改めること、主の愛を確認することは、非常に大切な作業であった。

しかしこの時、ペトロは自らの意志で、主イエスの御前に行き、罪の悔い改めを行うことはなかった。むしろ主イエスの方が、ペトロの前に立ち、声をかけてくださった。信仰とは、私たちの意志によって確立されるものではなく、主なる神さまのご計画と愛、摂理の御業が成し遂げられることにより、私たちに有効とされる。そのことが、ペトロの前に、主イエスが立ってくださることによっても示されている。

教会には、神さまを求め、喜んで教会に来て子どもたちもいるが、家族の信仰の故に、無理に来させられている子どもたちもいる。ペトロにとって、本当の意味で、悔い改めなければならぬ

いこと、主イエスの愛を受け入れることを必要としていない中、復活の主イエスはペトロの前に立ってくださり、声をかけてくださった恵みは大きい。今、教会に来ることの意味を理解できず、救いの喜びに満たされていない子どもたちに対しても、今、主イエスが一緒にいてくださり、愛をもって声をかけてくださり、神に立ち帰る時を待ってくださっていることを伝えたい。

〈三度繰り返される主イエスの問いかけ〉

ペトロは、逮捕された主イエスのことを、三度「知らない」と否定した。完全否定である。

それに対して主イエスは「ヨハネの子シモン、わたしを愛しているか」と三度、ペトロに対して問いかけてくださった。主イエスは、ペトロの思いをすべてご存じの上で、繰り返し確認されました。ペトロはそのことを十分承知の上で、「はい、主よ、わたしがあなたを愛していることは、あなたがご存じです」と答える。そして三度目に、ペトロは「悲しくなった」。この悲しみは、主イエスがペトロの思いを疑いつつ繰り返し問いかけられていると感じての悲しみではない。すべてをご存じの方が、繰り返し繰り返し、ペトロの心を確認し、その意志を強めてくださったのであり、ペトロ自身は、自らの犯した罪の大きさを改めて確認し、そしてその罪に対する恥じらいによって、悲しくなったのである。そしてペトロにとっては、自らの罪の大きさが示されれば、示されるほど、主イエスが無条件に受け入れてくださり、愛して下さっていることを理解することができたのであり、失敗を繰り返さない決意と献身の思いを強めるのに、必要な繰り返しであった。

そして主イエスは「わたしの小羊を飼いなさい」と三度語ってくださる。ペトロにとっては、自らの罪と向き合い、悔い改めることから、一歩進み、主イエスの弟子となること、さらには天に昇られ

る主イエスに代わって、牧者・宣教師としての使命が与えられていく。

この御言葉は、牧師や伝道者として召される者たちが、復活の主イエスと出会い、献身の心を確認することに用いられる。しかしこの御言葉は同時に、教会に集う一人一人、そして子どもたち一人一人が、主の御前に立ち、神の愛、神とのつながり、神による救いを、じっくりと確認し、神の子どもとして立つことができるように導くものである。そのために、三度の繰り返しを、ゆっくりと一言ひとこと確認するように語ることで、子どもたちにとっても、主イエスの愛を理解できるように伝えていきたい。

〈わたしに従いなさい〉

主イエスは、ペトロの献身を確認した上で、最後に、主イエスに従うキリスト者としての歩みを示される。キリスト者として生きることは、天国における永遠の生命の希望に生きることである。しかし同時に、地上においては、ノン・クリスチャンに囲まれ、キリスト教を蔑視する人々に囲まれて生きることもある。キリスト者として、信仰を貫くこと、神の民として、主の御言葉に従った歩みをするには、たやすいことではない。自分の意に反して、茨の道を歩むことも求められる。

しかし、主イエスは、そのような茨の道であっても、主イエスの愛に満たされ、献身の思いを確認したペトロが、神への信仰を貫き、神の栄光をあらわす者として殉教していくことを預言してくださった。

子どもたちにとっては、日曜日になれば、クラスで自分一人だけが教会に行っている人たちも少なくない。子どもたちにとって、日曜日の朝に、お友だちと一緒に遊ぶことを断り、教会に来ることも、大きな信仰の闘いとなる。いじめの対象となるかもしれない。中学・高校になるとクラブ活動の誘惑もある。こうした一つひとつの信仰の誘惑、信仰の闘いを経験することにより、信仰が養われ、神の栄光を称える生活を行うことができるこそが、キリスト者としての喜びであることを、子どもたちに伝えたい。

主イエスは、ペトロが主イエスを裏切り、主イエスを否定したにもかかわらず、ペトロを愛し、ペトロを受け入れてくださったように、私たちが、失敗を繰り返したとしても、主イエスはいつも目の前に立っていてくださり、愛をもって受け容れてくださる。だからこそ、自分にはそんなことできないと、後ろ向きになるような子どもたちがいたとしても、愛を持って受け入れ、神の愛を伝えていきたい。

(辻 幸宏)



5月4日 弟子たちを立ち上がらせるキリスト 説教展開例

テキスト ヨハネによる福音書 21章15～19節
子どもカテキズム 問66, 67
ウェストミンスター信仰告白 5章5節

(単元のねらい)

罪を犯したペトロに対して、主イエスは前に立ち受け容れてくださった。私たちにとって、毎週教会に来ている子どもたちであっても理解できないことがあり、どのように接したら良いかわからないときもあるかと思う。しかし、主イエスは、ペトロのことをすべてご存じであるように、子どもたちのこともすべて知っておられる。悪いことをしたことも、毎日の生活でもある。その上で、主は、愛をもって、一人一人を覚え、声をかけてくださり、受け入れてくださっている。

その上で、主イエスは、罪の悔い改めと献身の思いを言葉にしたペトロに対して、キリスト者として信仰を貫くことの厳しさをお語りになった。日本においてキリスト者として信仰を貫くことは、簡単なことではない。しかし信仰にこそ、喜びがあり、神の祝福があることを伝え、キリスト者として生きる決断を語りかけていきたい。

目の前に立って下さるイエスさま

みんなは、悪いことをしてしまったりしたとき、後から、「あの人とは会いたくないな」と思ったことはありませんか？ 悪いことをしたから、怒られるかもしれません。嫌われるかもしれません。絶交だと言われるかもしれません。その場にいたくなくて、逃げ出したいと思ってしまうこともあるかもしれません。

実は、ペトロさんも、そうでした。他の弟子たちは、十字架に架かって死なれたイエスさまが、復活されたことを、心から喜んでいました。ペトロさんも嬉しかったに違いありません。一緒に食事をとってくださったことが、嬉しくて嬉しくて仕方がありません。しかし、ペトロさんは、イエスさまと目と目を合わせることができなかったと思います。自分がとんでもない罪を犯したことを知っていたからです。

イエスさまは、逮捕されて十字架に架けられる前の夜、ペトロさんに、「あなたは今晚、鶏が鳴くまでに、わたしのことを知らない」と三度言う」とお語りになったのです。ペトロさんは、「そんなこと決してありません」とイエスさまの忠告を否定しましたが、実際に、イエスさまが逮捕され、裁

判にかけられている状況を見ると、自分も逮捕されるのではないかと怖くなり、「あなたもイエスの仲間ではないか」と問われたとき、「イエスさまのことなど知らない」と答えてしまったのです。それも一度や二度ではなく、三度もです。「絶対にそんなことありません」と語ったのと同じです。逮捕され、裁判にかけられていたイエスさまも、ペトロさんがそのように答えているのを、遠くから見ていることでしょう。ですから、ペトロさんは自分が語ったことを否定することもできません。

ですから、イエスさまが十字架の死から復活され、一緒にご飯を食べることができるのは、とっても嬉しいけれども、しかしイエスさまの前に行き、喜びを分かち合うことなどできないでいました。

しかし、そんなペトロさんの前に、イエスさまが来てくださり、声をかけてくださったのです。ペトロさんは嬉しい反面、隠れたかったことでしょう。ペトロさんは、イエスさまは何を語られるのだろうか？ 怒られるのだろうか？ そのようなことを考えたかもしれません。しかしイエスさまがペトロさんに語られた言葉は「ヨハネの子シ

モン(ペトロさんのこと)、この人たち以上にわたしを愛しているか」ということでした。復活を遂げられたイエスさまは、神さまだから、ペトロさんの行ったことばかりか、心の中で考えていることもすべて知っていました。それも、一度ではなく、二度目、三度目もイエスさまは、ペトロに繰り返して問いかけられました。ペトロさんは最初、「はい、主よ、わたしがあなたを愛していることは、あなたをご存じです」と答えましたが、三度目になると、悲しくなりました。「イエスさま、なんでわかってくれないんだ」という思いではありません。イエスさまが、これだけ自分のことを愛してくださっているにもかかわらず、自分はイエスさまに対して何を行ったのだ、と自分の行った罪がどれほど大きいものであったのかが、わかったのです。

主なる神さま、そしてイエスさまは、罪を犯したからといって、怒ったり、破門したりはしません。なおも愛をもって受け容れてくださり、罪を赦してくださいます。だからこそ、ペトロさんは、自分は大きな罪を犯したから、もう決して罪を犯さないようにしよう、どんなことがあっても、イエスさまを信じて、イエスさまを証して生きていこうと思ったのではないのでしょうか。

今、イエスさまは、ここにいる皆さんに対しても、「あなたはわたしを愛していますか」と問いかけてくださっています。一度ならず、二度、三度、繰り返し繰り返し語りかけてくださっています。いつもイエスさまは、皆さんと一緒にいてくださいます。先生は皆さんが、学校や家でどのような生活をしているか知りませんが、イエスさまは、みんな知っておられます。悪いことを行ったこと、隠れた所でいたずらしたこと、他人には知られたくないこともあるでしょう。イエスさまは、みんな知っています。それでも、イエスさまは、ここにいる一人ひとりの名前を呼び、「わたしはあなたを愛している」とお語りくださっています。だからこそペトロさんのように「わたしがあなた

を愛していることを、あなたはよく知っておられます」と告白していきたいと思います。

しかし、イエスさまは、ペトロさんが「あなたを愛しています」と語られたとき、さらに「わたしの羊を飼いなさい」と語られました。今までは、イエスさまのことを信じて、イエスさまの命じられることを守っていれば良かったのです。しかし、イエスさまは、これから天の昇って行かれ、地上からはいなくなります。その時にこそ、あなたが教会を導きなさいと、イエスさまは命令されたのです。イエスさまを信じるとは、イエスさまが愛してくださっているから、喜んで私たちもイエスさまを信じることに留まりません。イエスさまに愛されている人は、キリスト教会において、とつても大切な人です。みんながそろうからこそ、教会になるのです。誰一人欠けても成り立ちません。だからこそ、みなさんも、イエスさまを信じて、教会の一員になることを、神さまは求めておられます。

正直言って、クリスチャンになれば、何でも楽しいわけではありません。日曜日には、何で自分だけ教会に行かなければならないのだろう、と思うこともあるでしょう。神社やお寺で参拝を行わなかったりすれば、不思議に思われることがあるかもしれません。自分だけ格好が悪いと思ってしまふかもしれません。イエスさまは、ペトロさんに対して、クリスチャンであると、行きたくない所に連れて行かれることもあるよ、嫌なことをやらされることもあるよ、とお語りになっています。クリスチャンであることは、辛い時もあるかもしれません。しかし、あなたがクリスチャンであることを、イエスさまは喜んでくださいます。そしてとつても素晴らしいことです。だからこそ、皆さんも、今も目の前にいて、見守ってくださるイエスさまを神さまとして信じ、喜んでクリスチャンとして、歩いていっていきたいと思います。

(辻 幸宏)

[今週の暗唱聖句]

ヨハネによる福音書 21章17節

「主よ、あなたは何もかもご存じです。

わたしがあなたを愛していることを、

あなたはよく知っておられます。」

〈ねらい〉

復活のイエスさまからの愛の呼び掛けを聞いて、こんな私でもイエスさまを好きになってよいのだということを知る。

〈展開例〉

・おはなしのヒント

「イエスさまがいちばん」という子ども賛美歌があるのをご存知でしょうか。その一部を紹介します。

どんなに さびしいときにも
 どんなに かなしいときにも
 イエスさまがいちばん
 イエスさまがいちばん！
 たとえそれが どんなばあいでも
 イエスさまがいちばん
 イエスさまがいちばん！（なあぜ？）
 だって イエスさまは かみさまのもの
 だって イエスさまは かみさまのもの

私たちがどのような状況に置かれていても「イエスさまがいちばん」と賛美するのです。寂しい時、悲しい時、泣きたい時、叫びたい時、いじめられる時、苦しめられる時、お腹が空いた時、貧しい時、どんな時でも「イエスさまがいちばん」と子どもたちが神さまを賛美することができれば、こんなに素晴らしいことはないのではないのでしょうか。信仰について、子どもたちに色々と語り伝える言葉を教師たちは持っていることでしょう。でも結局のところ、子どもたちが心から「イエスさまがいちばん」「イエスさまがいちばん大好き」と言ってくれたらそれでよいのではないかなと思うのです。

今回の箇所は、復活のイエスさまとペトロの「愛の対話」と呼ばれる箇所です。ペトロは、イエス

さまを裏切ってしまったという罪の中で、なお苦しんでいました。イエスさまから「わたしを愛しているか」と問われても、「はい、誰よりも私はイエスさまを愛しています」などと自信を持って言うことなど到底できませんでした。イエスさまに対する自分の愛が如何に貧しく、また罪深いものであるのかを十字架の出来事とおして思い知らされたからです。でもペトロはイエスさまのことが大好きでした。自分の口では「大好きです」と言えないけれども、自分のイエスさまに対する愛は弱いだけでも、イエスさまがそんな私の思いをすべて知っていてくださるということに全てを委ねたのです。そして、ペトロは「わたしの羊を飼いなさい」というイエスさまの言葉を繰り返して聞くなかで、こんな私でもイエスさまは愛していてくださるのだ。赦していてくださるのだということを知ったのです。

私たちは自分のことをそれなりに深く知っています。自分がどういう性格で、どういう人間であるのかを。自分がいかに惨めで、また残酷な人間であるのかということも知っていることでしょう。だから、イエスさまを愛するに相応しくないのではないかと思っている子どもたちがいるかもしれせん。本当はイエスさまを愛したいのに愛することができない自分の愛の貧しさや矛盾を覚えています。しかし、それでもイエスさまはあなたを受け入れてくださっているという、新しい自分の姿をここで見つけることができたら幸いです。

〈祈り〉

神さまを悲しませてしまうことの多い私ですが、それでもイエスさまのことが大好きです。もっとイエスさまのことが大好きになれますように、これからも神さまの大きな愛を教えてください。

〈展開例〉**1. 今週の暗唱聖句を一緒に読みましょう。**

「主よ、あなたは何かもご存じます。わたしがあなたを愛していることを、あなたはよく知っておられます。」(ヨハネ21:17)

- ・あなた、とは誰で、わたしは誰ですか。
- あなたはイエス様。わたしはペトロ。
- ・以前ペトロが3回語った事は何ですか。
- 3回イエス様を知らないと言った。
- ・今回イエス様はペトロに3回何と尋ねましたか。
- 「私を愛しているか」。
- ・今日の暗唱聖句のペトロの答えは、何回目に尋ねられた時の答えですか。
- 3回目。

2. 説教を分かち合おう。**2-1. イエス様のことを考えよう。**

- ・イエス様はペトロに、「三度知らないと言われてとても傷ついたよ。どうしてそんなこと言ったの?」と聞かなかつたのはどうしてでしょう。
- 三度知らないと言ったペトロが言うてしまう弱さを、イエス様はすでにご存じだったからです。そしてペトロは自分の弱さを、イエス様がすでにご存じであったことを知りました。
- ・聖書では、「愛する」という言葉は「従う」とか「仕える」という意味を含むことがあります。イエス様の語った、「あなたは私を愛しているか」を、「あなたは私に従うか」に置き換えて読み直してみましょう。

2-2. ペトロのことを考えよう。

- ・復活したイエス様のことを3回知らないと言ったのはついこのあいだの話でした。イエス様に会った時はどんな気持ちになったのでしょうか。
- 復活なさったことの驚きと嬉しさ、そして3回知らないと言った罪悪感。
- ・ペトロがイエス様とお話しできたのは、どちら

から話しかけたからですか。

- イエス様。イエス様が歩み寄って下さいました。
- ・「あなたはわたしを愛しているか(わたしに従うか)」と聞かれた時、ペトロはどんな気持ちになったと思いますか。
- 従えなかったことを悔い改めようという思いと、これから従おうという決心。そして、もう罪を犯さず、どんなときもイエス様を信じて、証ししていこうという思い。

2-3. 私たちのことを考えよう。

- ・ペトロは、イエス様に「まあ、無理もないさ、気にするな。いいよいいよ」と罪を気にしないようには言われず、「もうお前はダメだ。バカじゃないか」と裁かれることも言われませんでした。ペトロが言われたように、「あなたは私を愛しているか(従うか)」と、私たちが同じようにイエス様に言われたらどう思いますか。
- イエス様に罪を赦してもらえた感謝と、従いたいという気持ち。
- ・今日のお話から、イエス様はクリスチャンをどうなさろうとしていますか。
- クリスチャンが自分の弱さのためにイエス様に大きな罪を犯しても、イエス様はペトロを励ましたように、クリスチャンがイエス様に従えるように励ましてくださるということ。
- ・ペトロは自分の罪を取じてイエス様の前から逃げましたか?
- 逃げませんでした。イエス様と向き合って語り続けました。私たちも、罪のために恥ずかしくてイエス様から離れていくのではなく、一緒にいようとするならば必ず罪は赦され、イエス様に従えるように励まされます。

3. おやつ

小さなお羊をそのままオープンで焼いておく。食べる前にお友だちに祈ってもらう。